



品質性能試験報告書

試験結果は以下のとおりであることを証明する。

平成14年12月24日

財団法人 建材試験センター
 中央試験所長 勝野 幸
 埼玉県草加市稲荷5丁目2番20号



試験名称	木造住宅用基礎に使用されるアンカーボルトの性能試験								
依頼者	会社名：株式会社 タナカ 住宅資材事業部 所在地：茨城県新治郡新治村大畑702番1号								
試験項目	引 張								
試験体	商品名：異形Sアンカーボルト								
	試験体記号	アンカーボルト				木造住宅用基礎			本数
		寸法 mm	埋め込み 深 さ mm	材質	表面処理	コンクリート		鉄筋	
	寸法 mm					圧縮強度 N/mm ²			
SD16-200 -1~3	・全長 350 ・軸部 D16 ・ねじ部 M16	200	SD295A (JIS G 3112)	Ep-Fe/Zn 5/CM2 C (JIS H 8610 及 び JIS H 8625)	120 × 640 × 2927	・呼び強度 Fc18 ・試験時 圧縮強度 f _c =23.7	・主筋 D10 及び D13 ・補強筋 D10 材質：SD295A (JIS G 3112)	3	
(注)1. 記載内容は、依頼者提出資料による。 2. 木造住宅用基礎（以下、基礎相当材とする。）は、布基礎の立上がり部分を対象としたものであり、鉄筋コンクリート造で製作されている。 3. 表中の試験時圧縮強度は四週強度であり、試験終了後、基礎相当材から採取したコア（φ75×120mm）3本の平均値を示す。なお、圧縮強度試験方法は、JIS A 1108による。 参 照：図-1及び図-2（試験体）									
試験方法	試験概要	図-3に示すように、基礎相当材上面に鋼製の反力台を設置（反力台の内法支持間距離：アンカーボルトの埋め込み深さの2倍）し、アンカーボルトにカップラー及び加力用棒鋼を取り付けた後、油圧ジャッキ、球座、ロードセル等を介して鉛直方向の引張荷重を破壊に至るまで連続的に加えた。 この間、アンカーボルトの引き抜け変位（アンカーボルトの伸びを含む）及び基礎相当材上面の上下方向変位を測定し、かつ、ひび割れ状況を目視観察した。							
	加力装置	センターホール型油圧ジャッキ、球座、加力用棒鋼及び反力台							
	測定装置	ロードセル（容量：100kN）、電気式変位計（容量：25mm及び50mm、感度：500及び200×10 ⁻⁶ /mm、非直線性：0.1%RO）及びデータロガー							
参 照：図-3（試験方法）									

つづき

	試験体		ひび割れ発生時			最大荷重時		
	記号	番号	荷重 (Pcr) kN	変位 (δ_{cr}) mm	試験体の状況	荷重 (Pmax) kN	変位 (δ_{max}) mm	破壊状況
試験結果	SD16-200	1	50.2	0.2	基礎相当材上面で コンクリートの ひび割れ	67.4	0.5	基礎相当材上面 及び側面で コンクリートの割れ
		2	44.4	0.2	同上	62.1	0.4	同上
		3	51.1	0.2	同上	63.2	0.4	同上
		平均	48.6	0.2	—	64.2	0.4	—
	(注)表中の変位(δ)は、基礎相当材上面からのアンカーボルトの引き抜け変位を示し、 次式により算出したものである。 $\delta = (DG1+DG2)/2 - (DG3+DG4)/2$ 参 照：図-4 (荷重-変位曲線) 写真-1～写真-3 (破壊状況)							
試験期間	平成14年12月 5日							
担当者	構造グループ		試験監督者	橋 本 敏 男	試験責任者	高 橋 大 祐	試験実施者	守 屋 嘉 晃 白 岩 昌 幸
試験場所	中 央 試 験 所							